

新・省エネルギーシステムの実用化に向けた 施設園芸農家の意向調査

表1 実施している省エネルギー対策
(複数回答) (上位5位)

順位	項目	回答者数割合(%)
1	加温機のメンテナンス	65
2	ハウスの気密性の向上	57
3	フィルム増(多層被覆)	46
4	変夜温管理	38
5	温度センサー	33

注) 回答者数285

表2 今後取り組みたい省エネルギー対策
(複数回答) (上位5位)

順位	項目	回答者数割合(%)
1	循環扇利用	18
1	フィルム増(多層被覆)	18
3	厚手資材利用	14
4	ハウスの気密性の向上	9
4	低温伸長性品種・台木	9

注) 回答者数285

表3 興味関心のある新・省エネルギーシステム
(上位5位)

順位	項目	回答者数割合(%)
1	代替燃料(バイオ燃料)	19
2	太陽光発電	16
3	太陽熱(蓄熱)	14
4	代替燃料(木材)	12
5	廃油加温機	8

注) 回答者数167

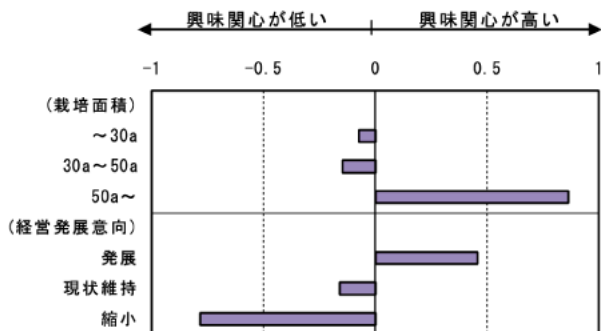


図1 新・省エネルギーシステムの興味関心
(カテゴリースコア)

近年の石油価格高騰により施設園芸農家の経営状況は逼迫しており、その対策として新・省エネルギーシステム(石油代替エネルギーシステムおよび省エネルギー)の実用化が急がれています。そこで、新・省エネルギーシステムに対する農家の意識と導入条件を明らかにするため、県内の施設園芸経営主約300名に調査を行いました。

その結果、多くの経営主が[加温機のメンテナンス]や[ハウスの気密性の向上]などの省エネルギー対策を実施しており、今後は[循環扇利用]や[フィルム増(多層被覆)]に取り組むと考えていました(表1, 2)。

新・省エネルギーシステムに対しては、経営主の65%が興味関心を持っており、特

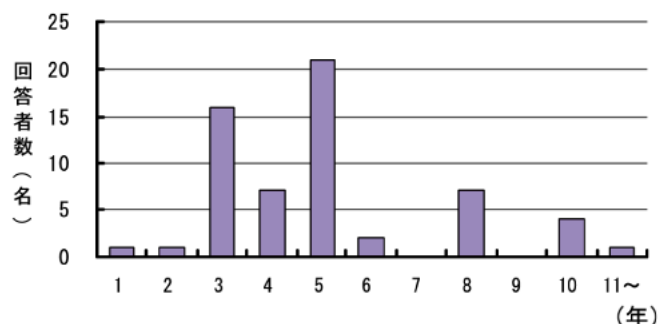


図2 導入コスト高回収希望年数

に[代替燃料(バイオ燃料、木材)]、[太陽光発電]、[太陽熱利用(蓄熱)]に対する興味関心が高くなっていました(表3)。また、[栽培面積が大きい]、[経営発展意向がある]経営主は、興味関心が高い傾向がありました(図1)。

新・省エネルギーシステムの導入については、運転コストが重油加温機より安いことが必要との意見が多く、実用化のためには導入コスト高の差額を3~5年で回収できるよう機械・装置の低コスト化が求められていることがわかりました(図2)。

(営農システム担当

福井淑子 088-863-4918)